

平成26年度スジアオノリ養殖概況

牧野賢治・棚田教生

平成25, 26年度の月毎の徳島県漁連共販数量の推移と対前年比を図1に、年度毎の共販数量と平均単価の推移を図2に示した。

主要漁場の吉野川では、11月上旬から養殖が開始された。昨年のような台風の影響もなく、順調に養殖が実施された。

平成26年度の月別の共販実績は、前年度と比較して、

12月が同140%、1月は同90%であり、12月の1ヶ月で70トンの豊作年であった(図1)。共販の最終結果は数量103トン、金額8.3億円、平均単価8,062円だった(図2)。

水産研究課は、漁業者が実施する人工採苗を支援するため、人工採苗用の母藻(吉野川産広域温度対応Y1124)種網を生産し、9月24日に大津、川内、応神町、徳島市第一、渭東及び徳島市辰巳の各漁協へ配布した。

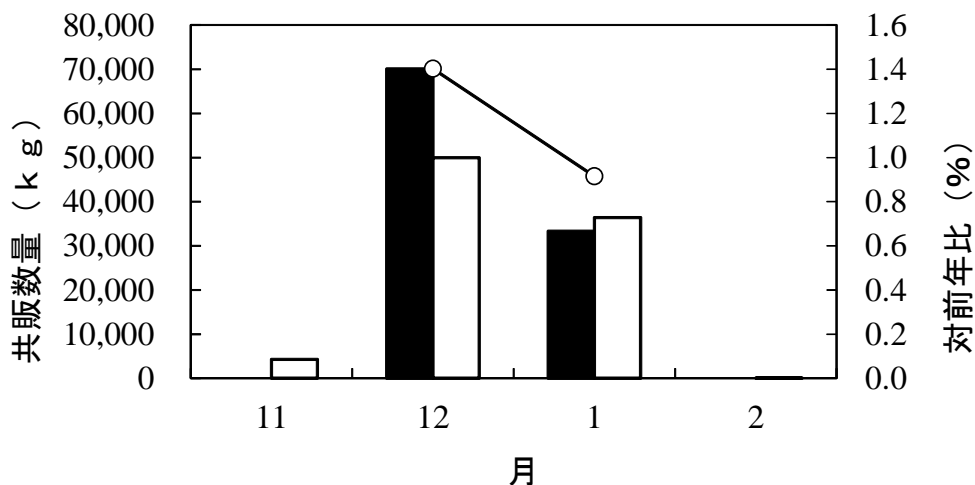


図1. 平成25, 26年度における共販数量の経月変化。 :平成26年度； :平成25年度； :対前年比

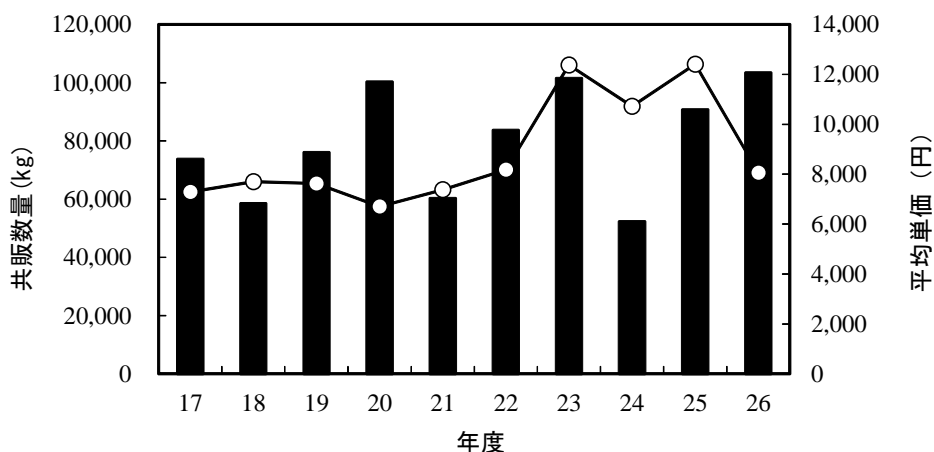


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移。 :共販数量； :共販単価